

市立病院を中心としたまちづくり

はじめに

砂川市は、北海道の中心都市札幌市と道北の拠点都市旭川市のほぼ中間点に位置しています。

砂川市の歴史は、明治19年に開始された上川道路(現在の国道12号)の開削が始まりで、明治23年に奈江村として開基し、戦後は石炭を原料とした化学肥料や木材加工の2大産業の従業員住宅などによって商圏が形成されるなど、中空知地域の中核都市として発展し、昭和33年に市制を施行しています。

しかし、本市の発展の原動力となっていた、化学肥料工場がエネルギー革命などにより縮小・合理化が進められ、人口の減少を余儀なくされました。一方で、昭和49年に緑化都市宣言、昭和59年には環境庁からアメニティ・タウン(快

適環境都市)の指定を受け、公園の中に都市がある、美しいまちづくりを推進したことにより、市民一人当たりの都市公園面積が日本一を誇るようになりました。

市立病院の改築までの経過

砂川市立病院は本館を昭和43年に建設して以来、昭和57年に北海道保健医療計画に基づき中空知地域センター病院の指定を受け、昭和58年に機能充実のため1000床を増床して高齢化社会に対応する病床の確保を図るなど、540床を有する地域の基幹病院としての役割を担ってきました。

また、平成7年8月に人工透析室、同年11月に健診室を開設し、患者ニーズへの対応と疾病の早期発見・早期治療を図るとともに、平成9年1月に災害拠点病院、平

成16年12月に地域周産期母子医療センター、平成17年1月に地域がん診療拠点病院の指定をそれぞれ受けるなど、地域医療の中心的役割を担っています。

こうした中、施設の老朽化・狭隘化による療養環境の不備や耐震強度が脆弱であることから、平成13年度にスタートした砂川市第5期総合計画の重点課題に「市立病院改築の促進」を掲げました。以来、中核病院として求められる高度・専門医療を推進し、ほかの医療機関との機能分担と連携を図るとともに、中心市街地のまちづくりも視野に改築事業を推進しました。

また、平成13年度に策定した「中心市街地活性化基本計画」により、空洞化が進む中心市街地の活性化を図るため、駅東部地区開発事業に取り組み、平成14年に市立病院

に隣接し、老朽化した市民会館の機能を兼ね備えた「地域交流センター」の建設を決めました。

さらに、平成15年度には病院改築に関してアンケート調査を実施、平成16年度から施設規模・資金計画などの調査研究に取り組みと同時に市町村合併の方向性も考慮しておりました。合併協議では、市立病院の建て替え位置を郊外に建設するという意見があったものの、同年9月に合併協議が不調に終わったことから、現在地での病院建設を目指し、検討を進めました。その結果、平成16年には市立病院に併設していた特別養護老人ホームの建て替え場所が駅東部地区に決まり、市民会館と特別養護老人ホームの跡地が病院建設用地として活用できることとなり、新病院の改築位置を現在地周辺とする方針を固めました。そして、平成17年6月に砂川市立病院改築基本構想を取りまとめることにも、市議会において、特別委員会の設置の下、基本

市立病院を中心とした中心市街地の活性化

平成19年に認定された新たな「中心市街地活性化基本計画」においては、市立病院の改築を都市福利施設と位置付けて整備し、医療、行政サービス、商業をコンパクトにまとめることにより、来訪者への利便性と中心街への回遊性を向上させることとしました。

病院改築事業は、病院利用者への飲食などを中心に民間企業の投資を誘発することが期待されると

ともに、1日1000人を超す外来患者や入院患者への見舞い客などの増加および病院スタッフの増員などが図られることから、中心市街地活性化の中核をなす事業となりました。

市立病院の周辺には、市役所、公民館、図書館などの公共施設があり、国道にも近いことから周辺市町からのアクセスも容易であり、JR砂川駅やバス待合所などの公共交通機関の利便性もよく、また、郵便局や銀行、商店街と近距離にあり、まさに砂川市のまちづくりの中心となっています。

平成20年に着工した、最新鋭の



砂川市のまちづくりの核を担う市立病院

(1) 敷地面積	全体	1万9812㎡
	新本館	1万1603㎡
	南館・立体駐車場	8209㎡
(2) 延床面積	新本館	3万5297㎡
	南館	6201㎡
	立体駐車場	1万208㎡
(3) 構造階数	新本館	SRC造(免震構造)、地上7階 塔屋1階
	南館	S造(耐震構造)、地上6階
	立体駐車場	S造(2層3段自走式)、405台収容
(4) 事業費	建設工事費	133億4200万円
	医療機器等整備費	51億6100万円
	その他	7億6800万円



砂川市長 善岡雅文

〔特産品〕和洋の味わいもバラエティ豊かで、おいしいスイーツがそろった菓子店が国道沿いに点在。「砂川ス

プロフィール

- ◆ 面積 78・69km²
- ◆ 人口 1万8444人
- ◆ 世帯数 9070世帯

〔将来都市像〕安心して心豊かにいきいき輝くまち

〔まちの特徴〕管内随一の規模を誇る市立病院の整備により、地域医療の中心都市として発展



イトロード」として発信中
〔観光〕北海道子ども国、砂川オアシスパーク(遊水地)など公園施設を活用した観光スポットが多数
〔イベント〕すながわ緑と花の祭典(5月)、ラブリバー砂川夏まつり(8月)、北海道義士祭(12月)、砂川冬のフェスティバル(12月)など、四季を通して各種イベントが展開

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「北陸・上信越と首都圏を結ぶ 一大中心都市」を目指して

日本有数の交通拠点都市

高崎市は、上毛三山の美しい自然を背景に、古くから交通の要衝、商都として栄え、現在も上越・長野新幹線や関越・上信越・北関東自動車道などの高速交通網が集中する日本有数の交通拠点都市として発展を続けています。また、平成18年、21年の市町村合併を経て、平成23年4月には全国で41番目の中核市に移行しました。そして、北関東自動車道の全線開通や、平成27年春の北陸新幹線の金沢延伸などの交通網のさらなる発展を踏まえ、「北陸・上信越と首都圏を結ぶ一大中心都市」を目指したまちづくりを進めています。

企業の背中を押す施策で 産業・雇用を創出

まちづくりを進めていく上では、企業の背中を押す施策で産業・雇用を創出することが重要です。また、まちづくりを進めていく上で、全国的な「まちなか」を演出していくことで、まちを歩く人を増やし、まちをもっと面白くしたいと考えています。

都市ブランド力の強化

群馬県の知名度やブランド力は全国最低水準であるという調査結果がある中、本市では、高崎の都市ブランド力の強化と新しいビジネスの誘致に積極的に取り組んでいます。

平成24年には、東京都内で「高崎ビジネス誘致キャンペーン」を実施したところ、約5万人のビジネスマンが来場し、日本有数のビジネス立地環境をアピールすることが



高崎の魅力を存分にアピールした「大阪・食博覧会」

都市力を生かした積極的な施策展開が必要です。本市は、交通拠点的な大きなセールスポイントであるほか、自然災害の少なさも大きく注目されています。しかし、それだけではビジネスは動きません。そこで、高崎に進出しようとする企業の背中を押すために、平成23年に市外企業の積極的な誘致と市内企業の市外流出防止に向けた「ビジネス立地奨励金制度」を創設しました。これは市内から移転・拡充する企業をはじめ市外から進出する企業に対して、用地取得費の30%を奨励金として交付するなど、全国トップレベルのさまざまな優遇策を盛り込んだものです。

この奨励金制度の創設により、長年塩漬けとなっていたビジネス用地が1年で完売するなど、市内企業の流出の危機が食い止められました。

できました。また本年は、「大阪・食博覧会」に高崎の「うんまい」食材の数々を持ち込み、高崎の魅力を存分にアピールしたところ、約10万人ものお客さまが訪れ、関西での知名度向上に大きな一歩を踏み出しました。

農業施策では、高崎産農産物の素晴らしさを積極的にアピールし、ほかの地域でも消費拡大が図られる「地産多消」を実現するために、首都圏有名スポーツでの即売会や、飲食ウエブサイト「ぐるなび」と連携した広報宣伝活動を行っています。

観光施策では、高崎の宝である榛名山を資源として生かすため、本年5月に「第1回榛名山ヒルクライムin高崎」を開催しました。初開催ながら、エントリー数は4000人以上となり、国内三大レースの仲間入りを果たしました。また、7月には「第1回榛名山湖リゾート・トライアスロンin群馬」も初めて開催したとともに、11月には「第1回榛名山マラソン大会」を初開催します。これらは地元住民の盛り上がりから生まれたものであり、今後地元の人たちと一緒に「榛名山」を全国にPRしていきたいと考えています。

たと考えています。

また、住宅改修を市内の業者に発注したときに受けられる「住環境改善助成制度」を創設したほか、事業者の経営安定と積極的な事業展開を支援するため、「小口資金融資保証料の全額補助」を行うなど、中小零細企業や創業者を強力に支援するための施策を展開しています。

魅力的なまちなかの演出

中心市街地の活性化には、居住人口を増やし、魅力的な店や町並みをつくり、まち全体の経済活動を活発にすることが重要です。そこで、本市では全国でも類がない画期的な助成内容を持つ「まちなか商店リニューアル助成事業」を創設しました。これは、市内の商店がリフォームする際、経費の2分の1を補助(最高100万円まで)す

るものですが、受け付け開始から数日で当初予算枠を突破するなど、助成事業によって多くの商店の背中を押すことができました。

また、中心市街地に新たなにぎわいをつくり出そうと、本年4月から「まちなかオープンカフェ(通称・高カフェ)事業」「まちなかコミュニティサイクル(通称・高チャリ)事業」を実施しています。

「高カフェ」は、国土交通省の規制緩和を機に、平成24年に社会実験を実施したところ、好評を得たため、本年から本格実施しました。「高チャリ」は、誰もが気軽に無料で乗れる自転車貸し出しサービスで、まちなかにある12カ所のサイクルポートに100台の自転車を配置しています。現在、大好評でまちなかの新しい交通手段として多くの人に利用してもらっています。

いずれにしても、「まちなか」が面白くなければ、人は来ません。今後もこうした施策を通じて魅力

エキサイティングなまちづくり

これからの時代は、都市が覇気を持ち、国内外からも人が集まる力を付けていくことが必要です。本市が、「人・もの・情報・文化」が行き交う活気あるまちに発展するように、また、北陸・信越・北関東の中で「選ばれる都市」になるために、今後もスピード感をもってエキサイティングなまちづくりを進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 459.41km²
- ◆ 人口 37万5188人
- ◆ 世帯数 15万6129世帯

- 〔将来都市像〕 交流と創造
- 〔まちの特徴〕 商・工・農業のバランスのとれた産業・経済基盤を有する、日本有数の交通拠点都市
- 〔市町村合併〕 平成18年1月23日、倉渕村、箕郷町、群馬町、新町と合併。平成18年10月1日、榛名山町と合併。平成21年6月1日、吉井町と合併



高崎市長 富岡賢治



- 〔特産品〕 高崎だるま・焼まんじゅう・梅・梨・国府白菜・おつきりこみ・高崎うどん
- 〔観光〕 白衣大観音、群馬音楽センター、榛名山湖、榛名神社、上野国分寺跡、箕郷・榛名梅林、多胡碑記念館
- 〔イベント〕 高崎映画祭、榛名山ヒルクライムin高崎、高崎マーチングフェスティバル、高崎まつりと大花火大会、少林山七草大祭だるま市

※面積は国土地理院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

次代に引き継ぐ 「ふるさと山県」づくり

山県市の紹介

山県市は、岐阜県の南部に位置し、岐阜市の北部に隣接する人口約2万9000人の市です。縄文の時代より人々が住み、室町時代には守護大名の土岐氏が治める地域



豊かな自然の中にある「グリーンプラザみやま」

でしたが、齊藤道三・織田信長の時代から美濃の国の北部地域となり、農業や林業の盛んな地として発展してきました。また、山県市という名称は奈良の正倉院所蔵の文書の中に「大宝2年(702年)、御野国山方郡戸籍」とあり、今から約1300年前から「やまがた」の呼称で呼ばれていたようです。

本市は、自然が美しく林業が盛んで、水栓バルブ発祥の地である美山町と農産物およびその加工が盛んであった伊自良村、工業や商業が盛んであった高富町の三町村が、平成15年4月に合併して誕生しました。本年度は、合併10周年を祝う年として各種の記念事業を計画しています。4月には、卓球が盛んなこの地域ならではのイベントとして、ロンドンオリンピックメダリストの石川佳純選手を

招いて卓球教室やトークショーを開催するなど、記念事業をスタートさせたとこです。

「無くなる・減るから 生み出す・生まれる」への 発想の転換を目指して

本市の基幹産業の一つである農業は、米づくり・野菜づくりが中心ですが、近年はクリーン農業による安全性の高い農産物の生産を拡大しています。また、市の特産品としては、高富の「利平栗」、伊自良の「連柿」、美山の「桑の木豆」「美濃山県元氣玉(にんにく)」などがあります。中でも、にんにくは「元氣玉」として商標登録するなど、その生産に力を注いだ結果、県内トップの生産地に発展。その加工品としての黒にんにくを全国に向けて販売しています。さらに、こ

の黒にんにくを手軽に食べていただこうと「元氣玉パーガー」や「黒にんにくラーメン」「元氣玉黒餃子」など、新しい特産品を生み出しているところでは。

観光の振興では、岐阜市・名古屋から近い地の利を生かして、「グリーンプラザみやま」のコテージやキャンプ場を中心に豊かな自然の中で遊べるゾーンづくりを進めてきました。さらに、本年度からは、市内の1000m級の舟伏山をはじめとする3つの山に、イメージキャラクター「山県さくら」が案内する名山めぐりを展開するなど、潜在的マーケットの可能性の高い日帰り登山を観光商品として生み出しています。今では、市内外からの登山者も多くなり、登山と里山探歩などを組み合わせたい新しい観光も生み出していきたくと考えています。

これは「無くなるから生み出す」への発想の転換をして進め始めた一例です。

活力ある地域発展を 目指して

山紫水明の緑豊かなまちとして発展していますが、現在、岐阜県・愛知県・三重県の諸都市を結ぶ東海環状自動車道とインターチェンジの建設が進められています。本市としては、自然と共生しながら大きく発展できる機会ととらえ、市内企業の支援と優良企業の誘致を主軸に「活力」を生み出したいと考えています。同自動車道の完成時には、人や物の交流が活発になることから、市内産業の活性化や特色ある農林業の振興、山や川の



市民協働の地域づくり

自然と里山文化をはじめとした観光商品化などを見据えた取り組みを総合的に進めています。さらには、東海環状自動車道の西回り沿線市町が「連携・共同した魅力発信」を考え、人々の交流を活性化できるように「作る・つながる・集う」の関係構築を目指しています。

参加・貢献の喜びを持った 「協働」による地域づくりを 目指して

平成24年には、「第67回国民体育大会(ぎふ清流国体)」が開催されました。国体の開催と準備の期間には多くのボランティアの方々組織的に活動されました。参加された方々は互いに絆を深められ、大会を盛り上げ、成功へと導いてくださいました。国体成功という達成感と、参加・協力・支援の素晴らしい「姿」をお互いに実感され「協働への意識」を高めていただいたようです。

これと同時に、市民参加の事業仕分けの実施、市民が参加しやすい小学校区ごとの市政座談会の実施、公共交通を考える市民会議での意見交流、自治基本条例策定委員の公募と意見交流などを通し

て、多くの市民の声を市政に反映することができ、協働の意識が国体同様に高まってきたと感じています。

結びに

人口の減少や少子高齢化など課題山積の中ですが、産業・環境・福祉・教育など各分野で山県の特色も出てきました。これまでの10

年間、ハード事業の整備と山県は一つという市民の一体感の醸成に努めてきました。今後、この10周年という節目をターニングポイントととらえ「安全・安心の地域づくり」「市民協働の地域づくり」「ソフト事業にも視点を向けた地域づくり」を3本の柱とし、「ふるさと山県」の誇りを次代につないでいきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 222.04 km²
- ◆ 人口 2万9283人
- ◆ 世帯数 1万763世帯

〔将来都市像〕 持続可能で次代に責任の持てる地域

〔まちの特徴〕 面積の約84%を森林が占める豊かな自然と活力ある都市が調和したまち

〔市町村合併〕 平成15年4月1日、旧山県郡の高富町、伊自良村、美山町が対等合併

〔特産品〕 利平栗、連柿、桑の木豆、



山県市長 林 宏優



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

未来にはばたく国際学術研究都市 とともに育み、人が輝くまちを目標して

酒と歴史と自然に 醸されたまち



赤レンガの煙突となまこ壁が連なる酒蔵通り

東広島市は、広島県のほぼ中央部に位置し、周囲を低い山々に囲まれた標高200〜400mの盆地状の地形が大部分を占め、南西部を中心に比較的平坦地に恵まれていいます。また、南東部は瀬戸内海に面しており、沿岸部には小規模な平坦地が広がり、島しょ部もあります。古くから芸の国の中心地として栄

え、西国街道の宿場町でもあった西条は江戸時代から酒づくりが行われており、灘・伏見と並ぶ銘醸地として知られています。JR西条駅を降りてすぐにある酒蔵通りには、赤レンガの煙突となまこ壁が連なり、8つの蔵元が軒を並べています。また、毎年10月上旬に、酒蔵通りをはじめJR西条駅前一帯で開催される「酒まつり」は、全国各地の蔵元から約900銘柄の地酒が集まり、全国からの愛飲家をはじめ20万人以上が訪れる市を代表する一大イベントとなっております。また、「歴史のまち」としても知られ、広島県内最大の前方後円墳である「三ツ城古墳」や戦国時代に大内氏が安芸・備後の拠点として築城した「鏡山城」などの城跡をはじめ史跡が点在し、市中心部から

少し離れた高屋町白市地域は、安芸の国の交通の要衝として栄え、国の重要文化財である旧木原家住宅をはじめ江戸初期から残る小さな町並みがあり、往時の繁栄を今に伝えています。標高500m前後の山地から瀬戸内海まで南北約40kmで、四季折々のさまざまな自然の表情を楽しむことができ、お酒はもとより市北部のマツタケ、ぶどう、鮎、リンゴ、エゴマや市南部のカキ、じゃがいも、ピワなど特産物も各地区でバラエティに富んでいます。昭和49年4月に、広島大学の統合移転決定を機に4町が合併し、広島県内12番目の市として誕生し



JR西条駅前一帯で開催される「酒まつり」

産業における先端技術化の進展、官・民・大学などの機関が多く立地した広島中央サイエンスパークといった屈指の研究団地の造成などにより、産業の集積や企業立地が進み、市内外において経済的な好循環を生み出したことが、市の発展につながっていったものと考

えております。また、地域特性を踏まえ、それぞれの地域にとって望ましいまちづくりを進めていく考えを基本とし、「市民協働のまちづくり」を推進するとともに、今後本市が持続的に発展していくために、市の魅力をさらに高め、市民が住むことに誇りと喜びを持てる、また市外の人や企業から定住・交流先として「選ばれる都市」として評価いただけるまちを目指します。そのために、ほかの都市に比べて大きな優位性のある分野などを中心に、市内外に発信し、定住促進、企業誘致、観光客誘致をはじめ各種事業を展開するなど、シティブロモーションの推進を図ってまいりたいと考えております。

加えて、平成17年2月の周辺5町との合併により広がった魅力ある地域資源も活用することで、さまざまなチャレンジを実行し、市民生活の質的な向上、地域経済の活性化につなげ、都市の成長を持続させてきた結果、平成22年の国勢調査では、人口が19万人を突破し、「製造品出荷額等」は平成19年には1兆5000億円に迫るなど、順調に都市としての成長の基盤を築いてまいりました。

術研究機能や教育環境、「酒文化、歴史および伝統」や「豊かな自然との調和」「産学金官連携」といった基本的特長、さらには平成の大合併により加わった新たな魅力ある地域資源を最大限活用することで、この厳しい状況に対処してまいりたいと考えております。また、地域特性を踏まえ、それぞれの地域にとって望ましいまちづくりを進めていく考えを基本とし、「市民協働のまちづくり」を推進するとともに、今後本市が持続的に発展していくために、市の魅力をさらに高め、市民が住むことに誇りと喜びを持てる、また市外の人や企業から定住・交流先として「選ばれる都市」として評価いただけるまちを目指します。そのために、ほかの都市に比べて大きな優位性のある分野などを中心に、市内外に発信し、定住促進、企業誘致、観光客誘致をはじめ各種事業を展開するなど、シティブロモーションの推進を図ってまいりたいと考えております。

厳しい社会経済情勢への 対処に向けて

その後、リーマンショックや歴史的な円高など、予測を超える厳しい社会経済情勢の変動などにより、成長力は鈍化傾向にありますが、本市に集積している大学や研究機関、先端技術産業といった学

度調査では、医療、公共交通、高度調査では、医療、公共交通、高

これから求められる都市像

2年ごとに行っている市民満足度調査では、医療、公共交通、高

プロフィール

- ◆ 面積 635・32km²
- ◆ 人口 18万3435人
- ◆ 世帯数 7万8345世帯

〔将来都市像〕「未来にはばたく国際学術研究都市」とともに育み、人が輝くまち

〔まちの特徴〕酒と歴史と自然に醸されたまち、多くの大学や試験研究機関など学術研究機能が集積したまち

〔市町村合併〕平成11年3月末以降、平成17年2月7日、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町および安芸津町と合併



東広島市長 蔵田義雄



- 〔特産品〕酒、カキ、バレイシヨ、西条柿、米、黒瀬牛、エゴマ、ピワ
- 〔観光〕酒蔵通り、竹林寺、高屋町白市の町並み、鏡山公園、福成寺、時報塔、三ツ城古墳
- 〔イベント〕酒まつり、火とグルメの祭典あきつフェスティバル、黒瀬ふれあい夏祭り、アクアフェスタin福富

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。